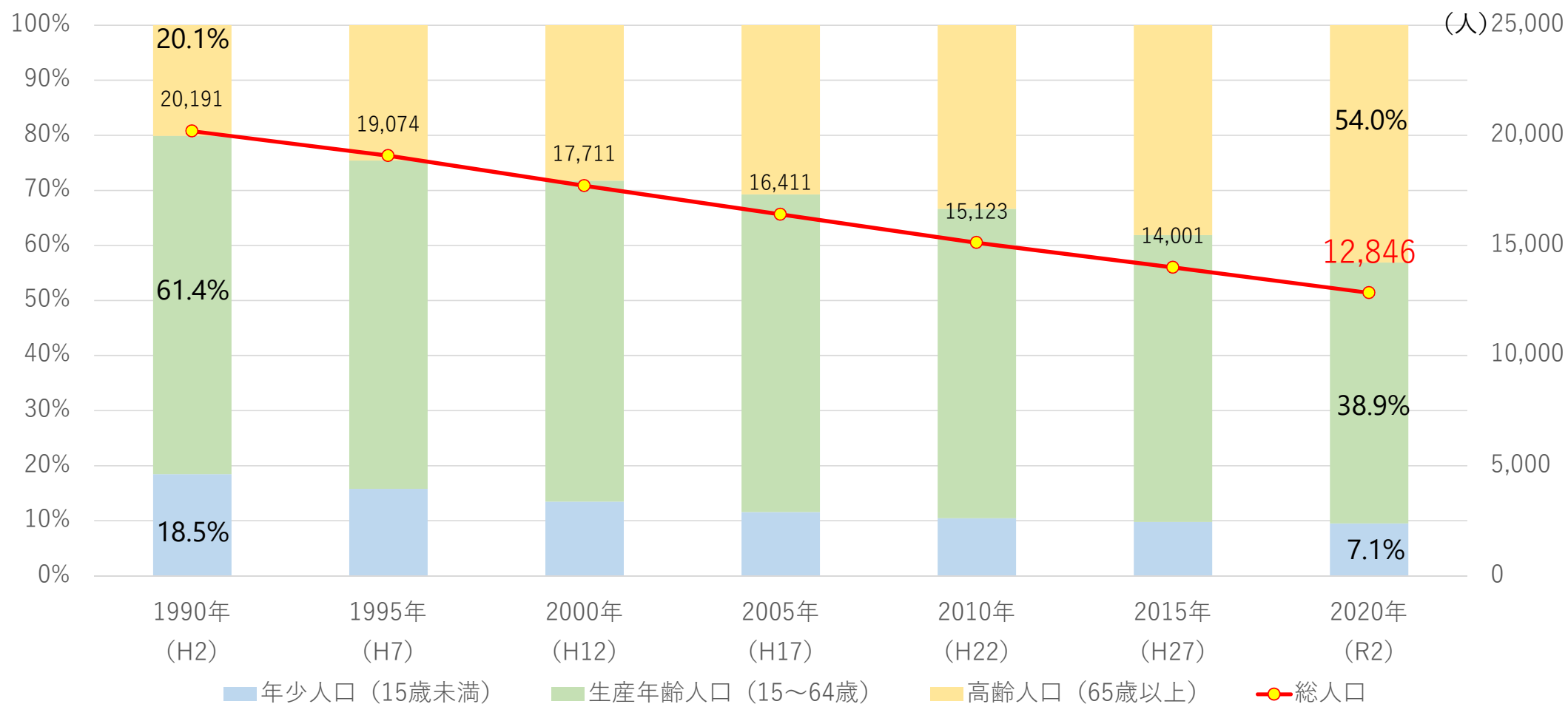


# 土庄町財政報告会

# 人口減少・少子高齢化が進む土庄町

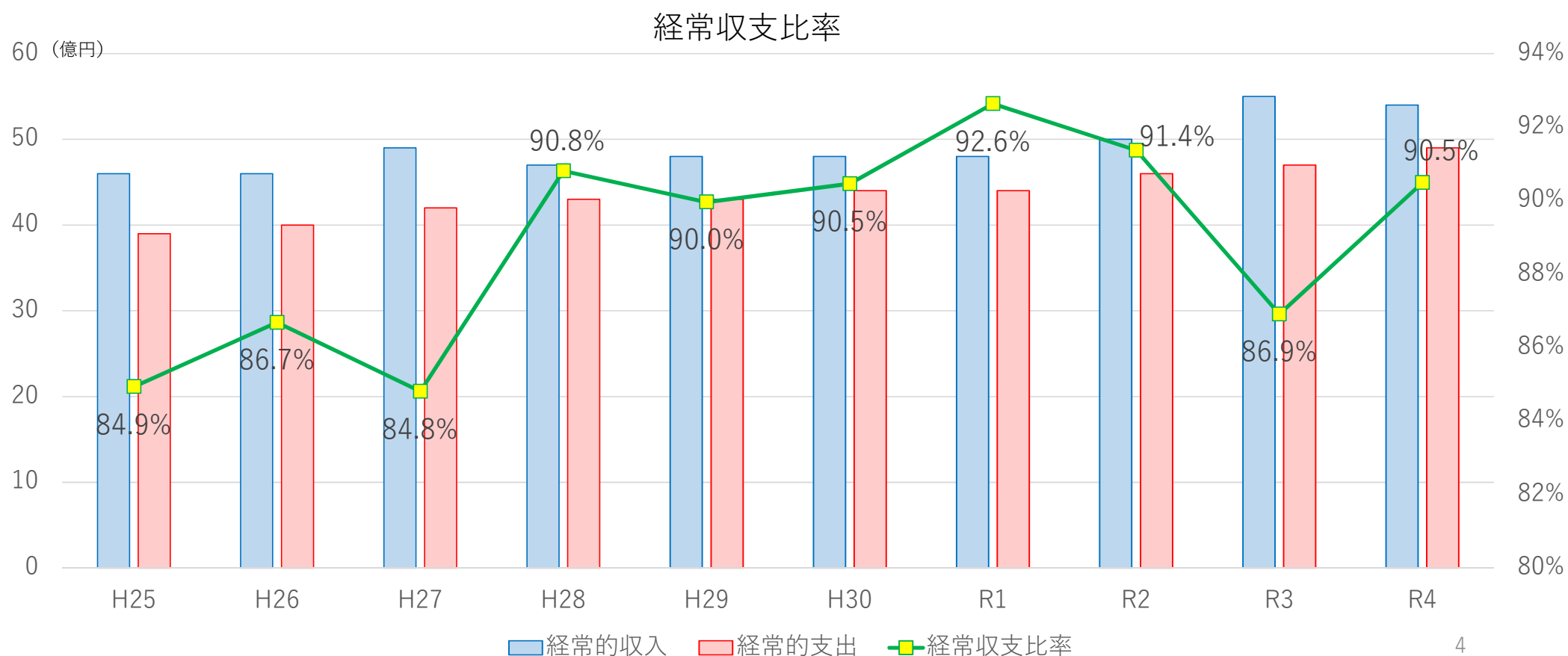


「出展」 国勢調査人口より

# 財 政 状 況

# 財政の硬直化

- ・ 経常収支比率は、常時90%程度で推移
- ・ 令和3年度に86.9%まで低下したが、令和4年度に再上昇
- ・ 令和5年度以降も90%程度で推移する見込み

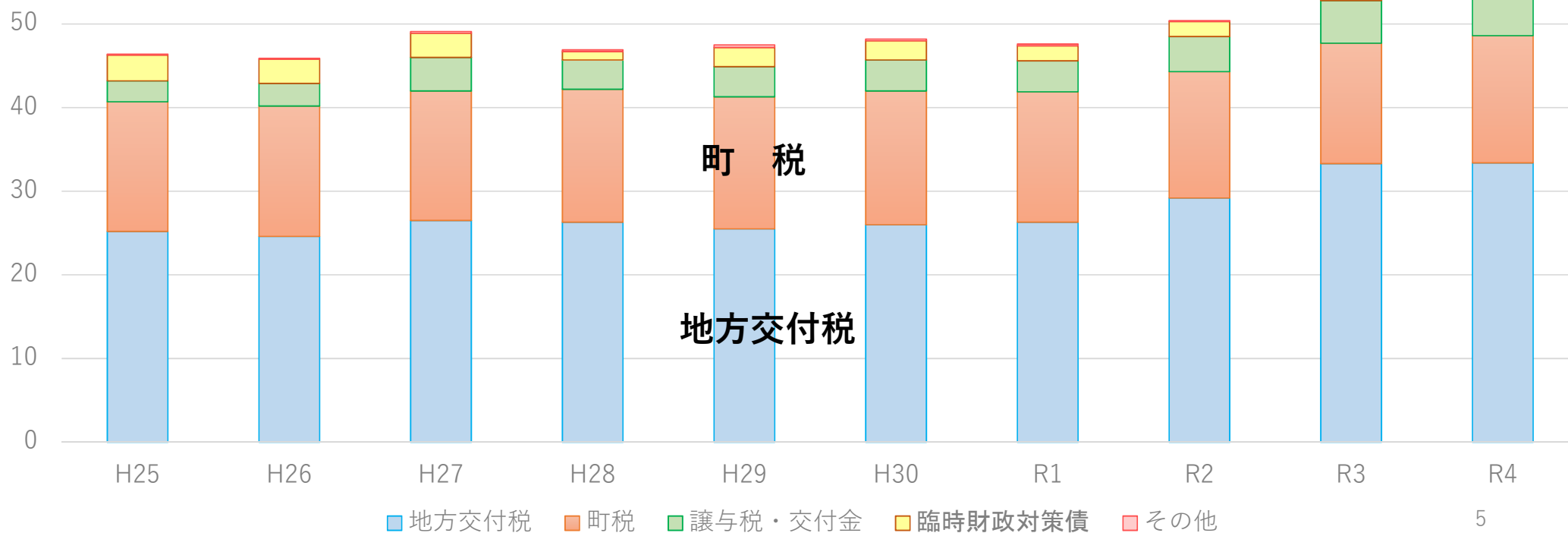


# 臨時収入による歳入の増加

- ・ 経常的収入の主要素は町税と地方交付税
- ・ 町税は、ほぼ横ばいだが人口減少により減少傾向
- ・ 地方交付税は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰対策により10年前より約8億円増加

経常的収入

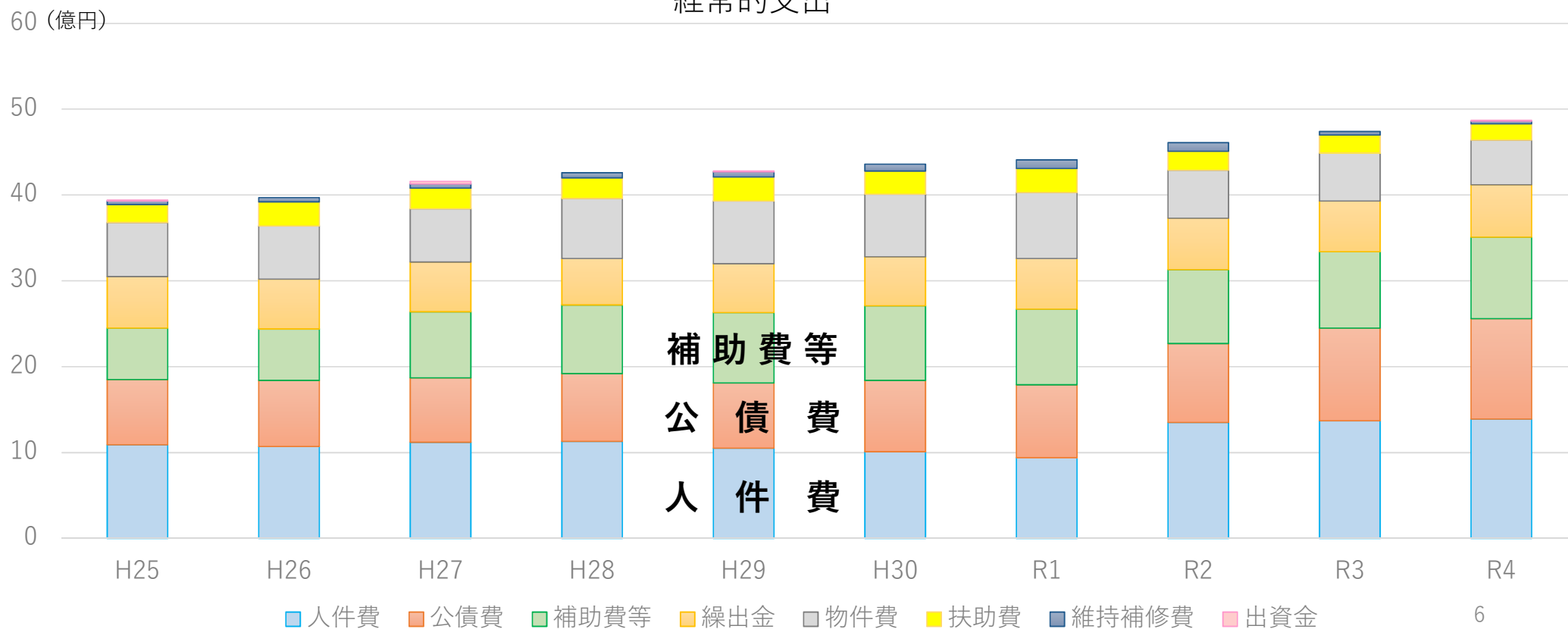
60 (億円)



# 固定経費の高止まり

- ・ 経常的支出の主体は人件費、公債費、補助費等
- ・ この3経費が、10年前と比べ約10億円増加
- ・ 今後も、一定期間は継続する見込み

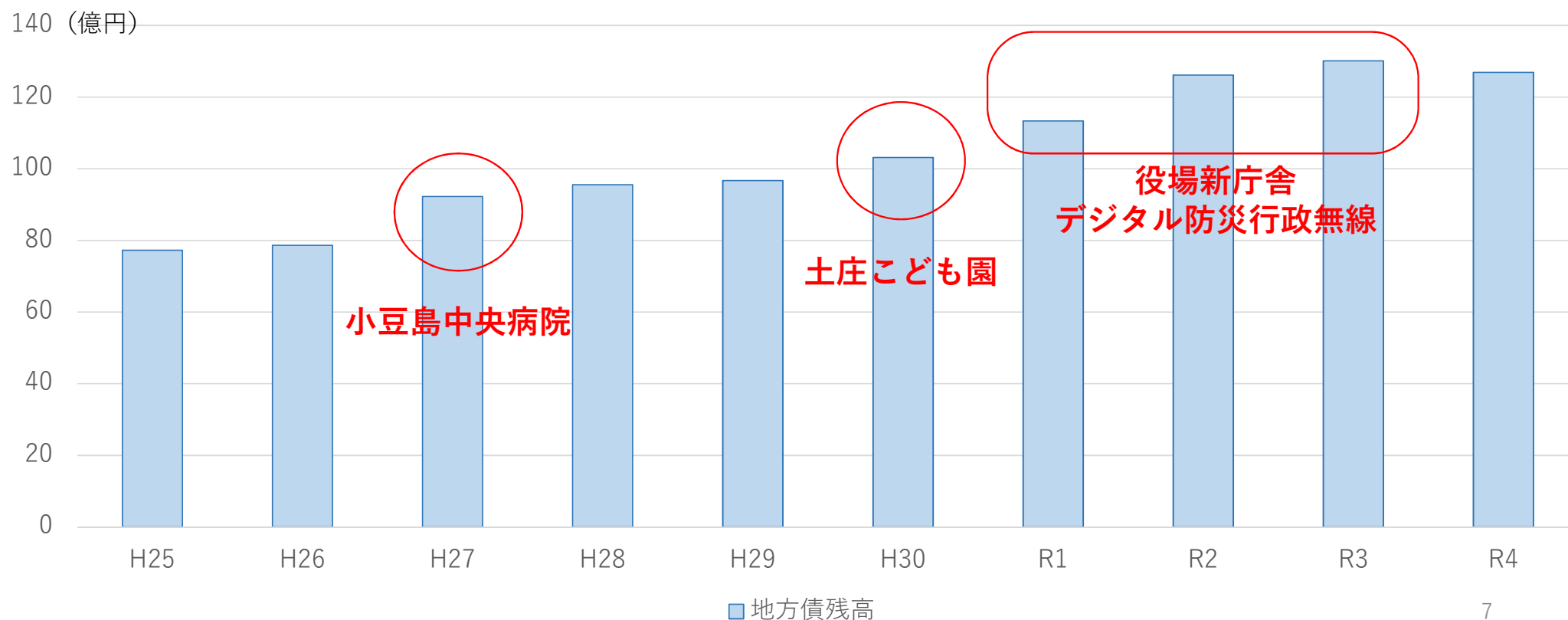
経常的支出



# 各種施策により借入金が大きく増加

- ・施設の老朽化、統廃合などにより10年前と比べ大きく増加
- ・役場新庁舎などの事業により、今後は高い水準で推移する見込み

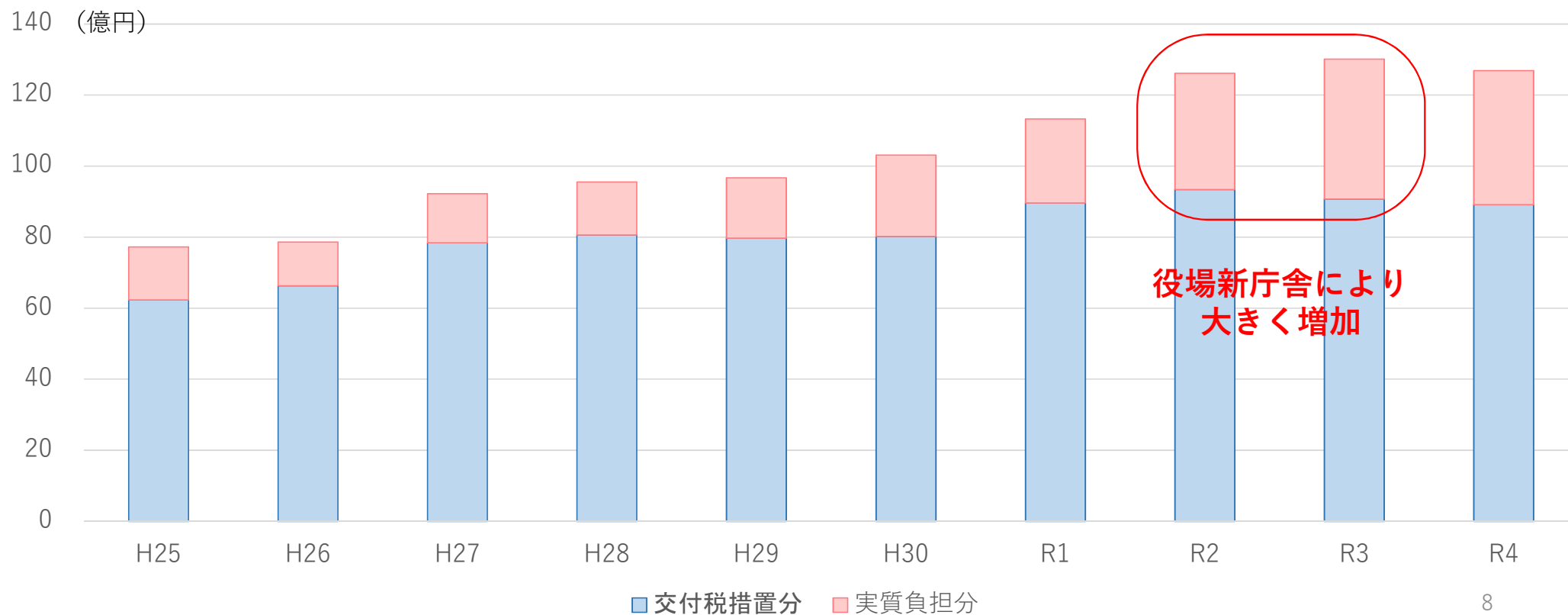
地方債現在高



# 借入金の実質的な負担が増加

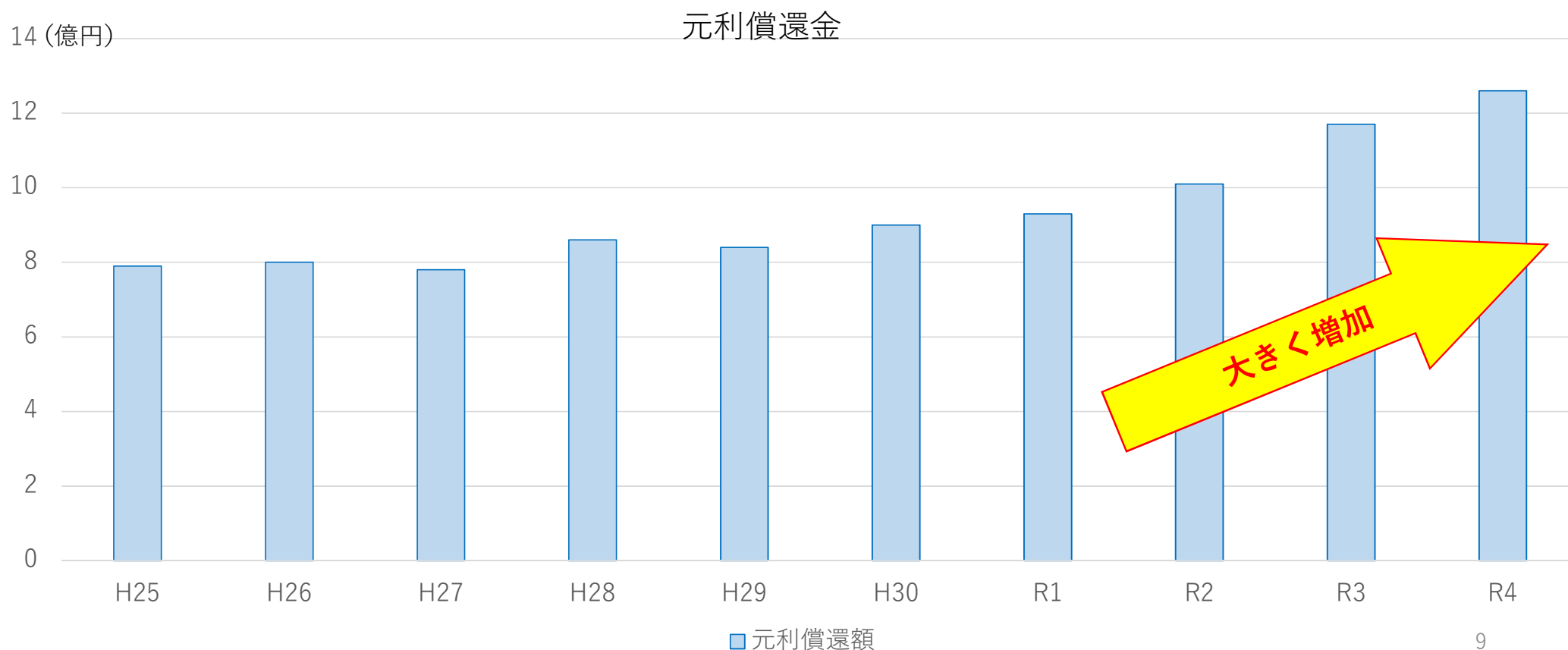
- ・ 地方交付税措置の活用により、実質的負担の増加を抑制
- ・ 実質的負担は10年前と比べ22.9億円増加（H25→R4）

地方債現在高（負担内訳）



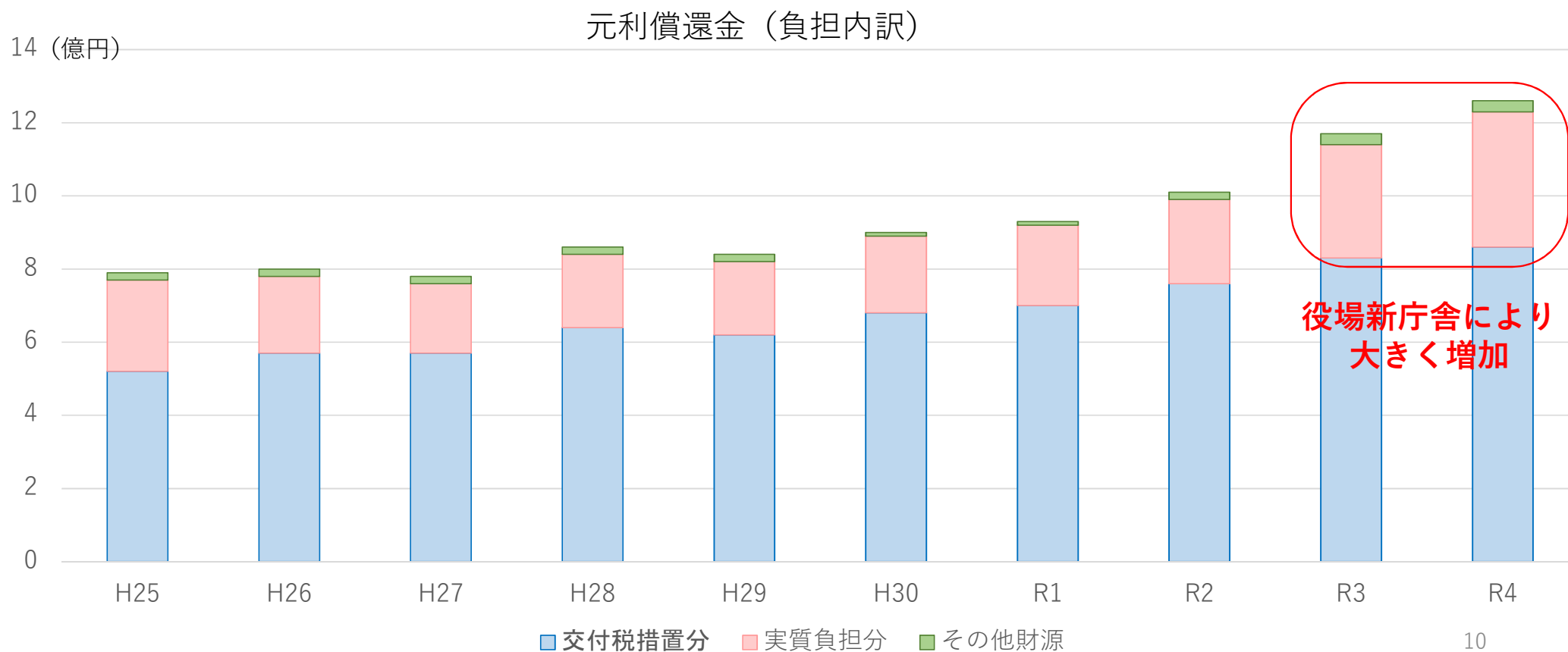
# 毎年の返済金が大きく増加

- ・ 地方債現在高の増加に伴い、毎年度の元利償還金（借入返済金）が大きく増加
- ・ 役場新庁舎の建設により、今後は高い水準で推移する見込み



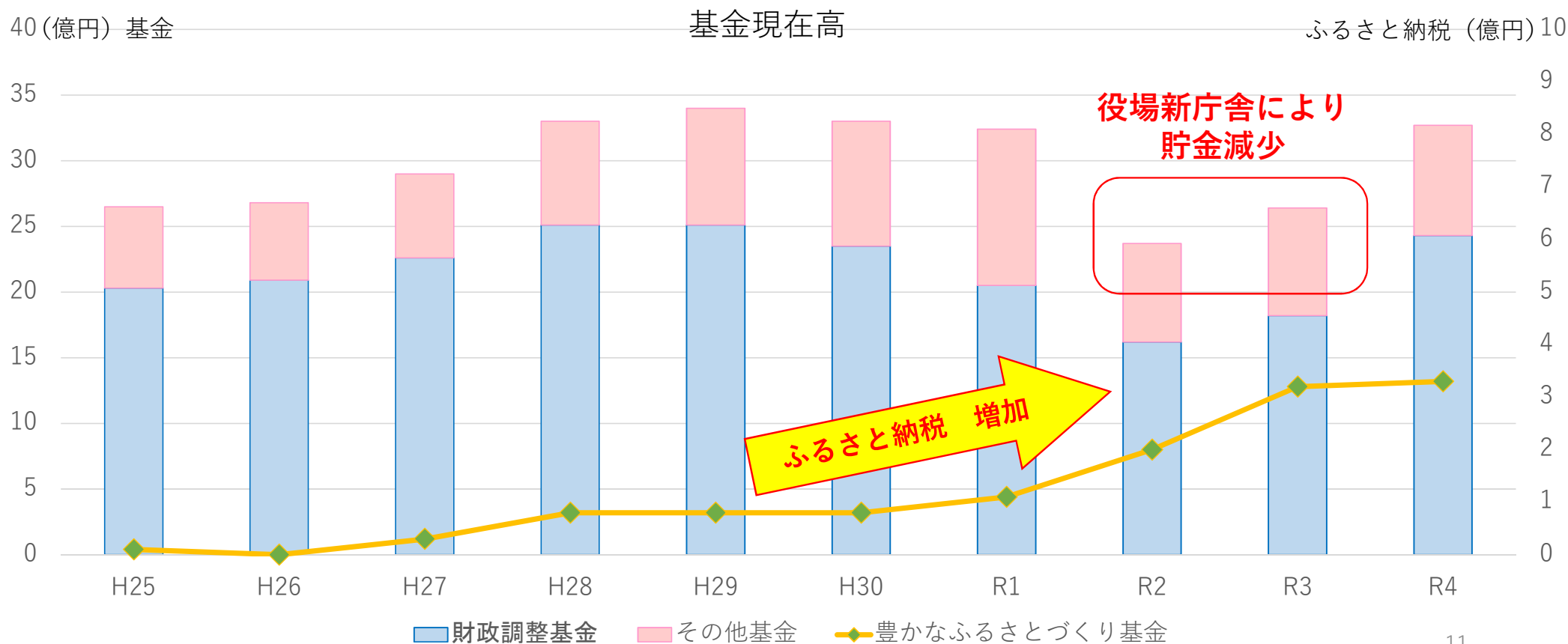
# 返済金の実質的な負担が増加

- ・ 地方交付税措置の活用により、実質的負担の増加を抑制
- ・ 実質的負担は10年前に比べ1.2億円増加（H25→R4）



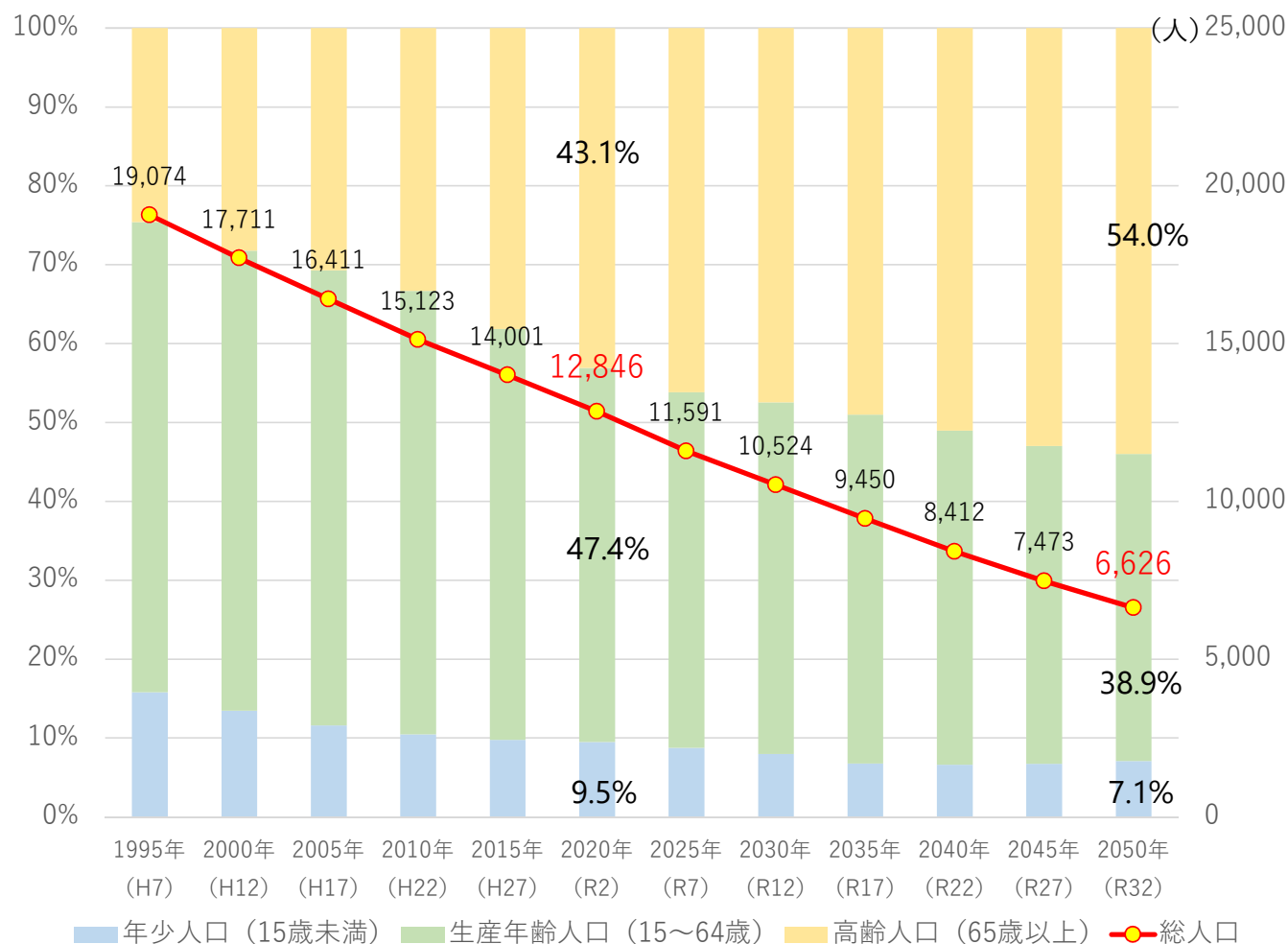
# 貯金は増加傾向

- ・ 財政調整基金は、役場新庁舎建設により一時的に減少したが増加傾向（R4末：24.3億円）
- ・ ふるさと納税の推進により、10年前と比べ寄付額が大きく増加（H25：700万円 → R4：3億2,900万円）



# 持続可能な町を目指して

# 人口減少・少子高齢化に拍車がかかる



全国的に人口減少・少子高齢化

⇒ 土庄町も同様

2020年 (R2) ⇒ 2050年 (R32)

● 総人口  
12,846人(R2) ⇒ 6,626人(R32) 約1/2

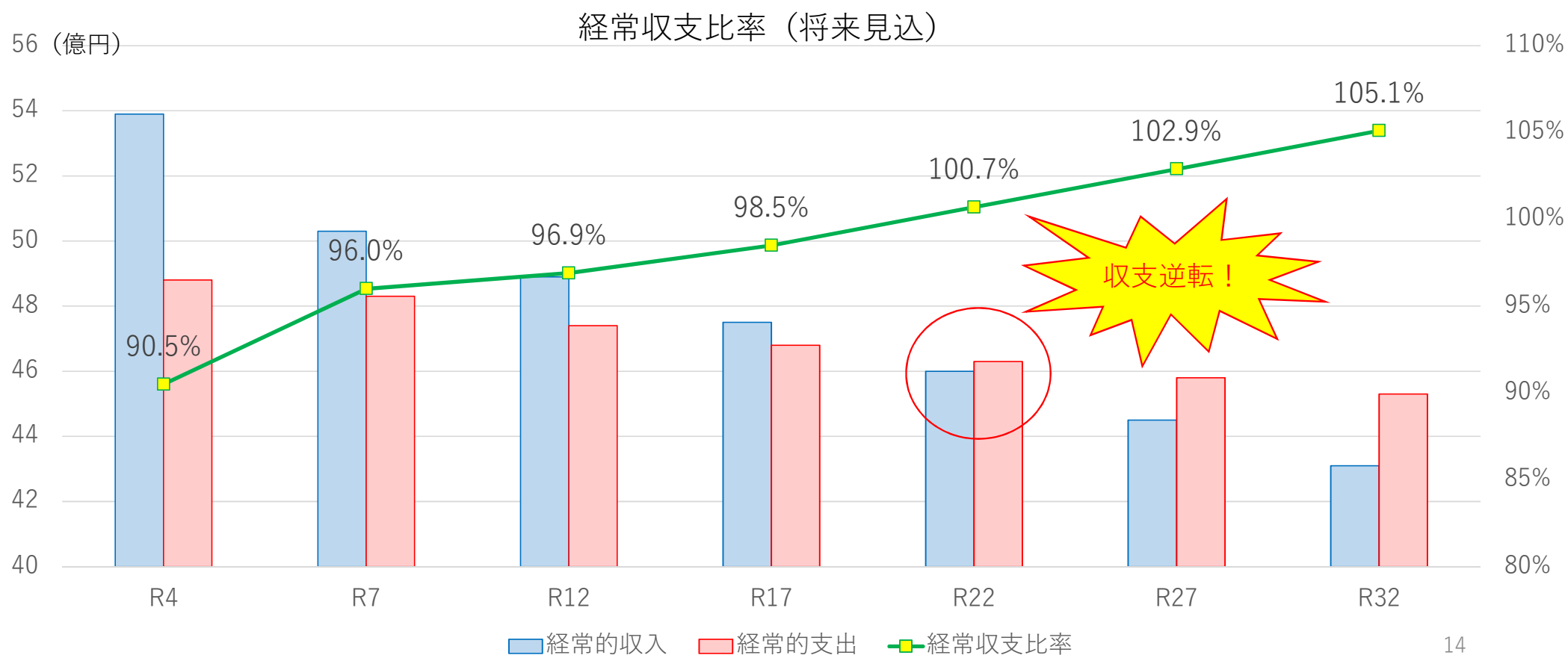
● 子ども(0-14歳)の人口  
1,222人(R2) ⇒ 471人(R32) 約1/3

● 生産年齢(15-64歳)人口  
6,090人(R2) ⇒ 2,580人(R32) 約1/2

● 高齢化率  
43.1%(R2) ⇒ 54.0%(R32) 総人口の半数

# 人口減少における町財政の将来

- ・ 経常的収入の主要素である町税と地方交付税が人口減少により大きく減少
- ・ 経常的支出は、現状の行政サービスを維持した場合、微減する程度
- ・ 人口問題を発端として、15年～20年後には収支が逆転 → 行財政運営が困難に

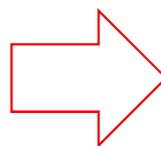


## 人口減少をくい止め、人口減少を見据えたまちづくり

### 施策方針

#### 人口減少・少子高齢化

- 将来を左右する最重要課題
- 人あってこそその町
- 人の営みが地域を形成



- ① 地域経済の活性化
- ② 域外からの流入人口の増加
- ③ 子育てを楽しめる環境づくり
- ④ 防災対策の強化

## 『島は1つ』 魅力あふれる小豆島観光ビジョン

交流人口・関係人口の増加  $+$  関連産業への波及効果  $\Rightarrow$  地域経済の活性化

小豆両町の観光方針を1本化：分かりやすい観光情報・利用しやすいサービスの提供（観光客の増加）



小豆島観光ビジョン（小豆島観光協会）

### 小豆島観光におけるミッション

観光事業の推進により**持続可能な島づくり**の中心的役割を務める

### 小豆島観光におけるビジョン

観光により消費される島ではなく、観光により**持続できる島**を目指す

### 小豆島観光におけるバリュー

離島を形成する**景観美**（青い海と緑の山々のバランス）

離島に息づく**生活文化**（伝統と革新／深化と新化）

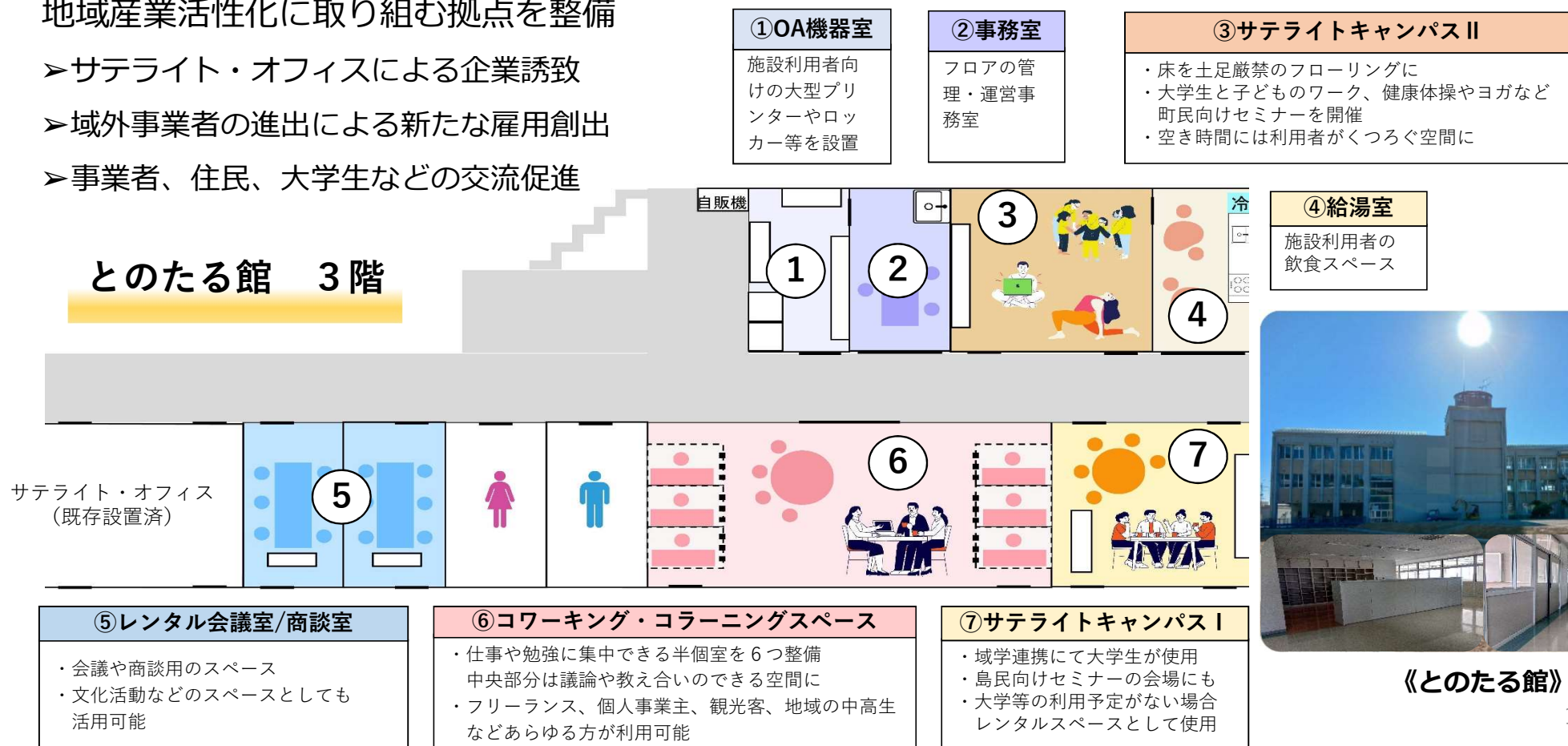
- 今後5か年で取り組む基本戦略10個
- 基本戦略ごとにアクションプランを決定

離島の利点を活かす  $\Leftrightarrow$  離島の不便を減らす

## 企業誘致・雇用創出の交流拠点

地域産業活性化に取り組む拠点を整備

- サテライト・オフィスによる企業誘致
- 域外事業者の進出による新たな雇用創出
- 事業者、住民、大学生などの交流促進

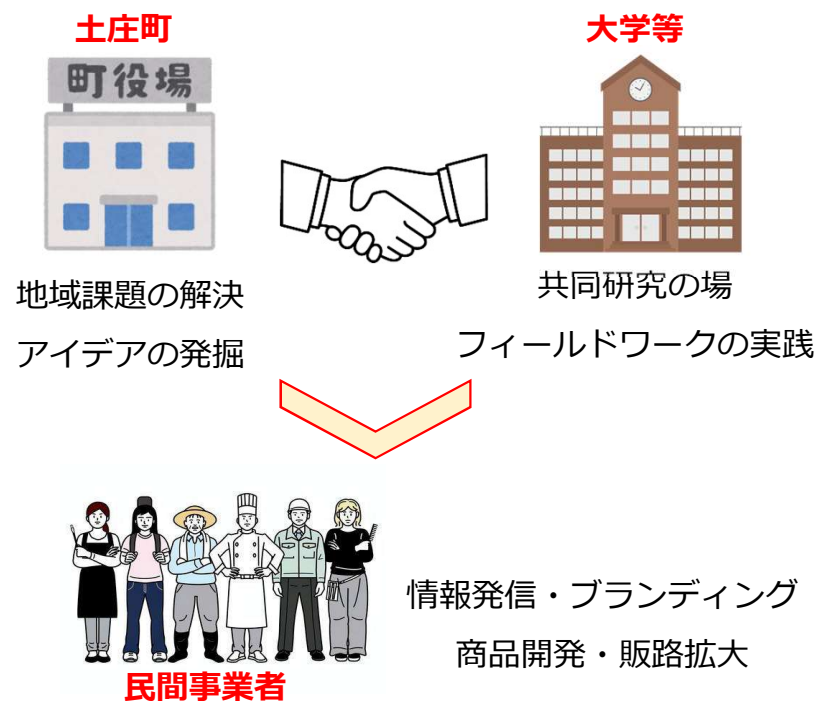


《とのたる館》

## 産学官連携の交流拠点 『夢すび館』

地域社会・地域経済を支える人材の確保

大学生等の若年層の交流人口の増加 + 将来的な関係人口の増加



### 《包括連携協定締結大学》

H27年11月 京都産業大学  
H29年12月 武庫川女子大学  
H30年10月 香川大学

R2年10月 徳島文理大学  
R5年5月 せとうち観光専門職短期大学



《夢すび館》

(人)

|     | 利用者数  | 内宿泊者数 |
|-----|-------|-------|
| H30 | 508   | 224   |
| R 1 | 640   | 530   |
| R 2 | 94    | 40    |
| R 3 | 213   | 95    |
| R 4 | 812   | 443   |
| R 5 | 1,605 | 840   |

《夢すび館 利用者数》

# 「小豆島マルシェ」

➤ 地場産品の付加価値化や都市部への販路開拓支援

➡ 町内事業者の経済活動 底上げ

➤ 大学生等による商品開発・販売やPR活動

➡ 都市部から小豆島へ 観光客・交流人口増加



◎ 地場産品の取り組みをPR

◎ 事業者の取り組みを支援

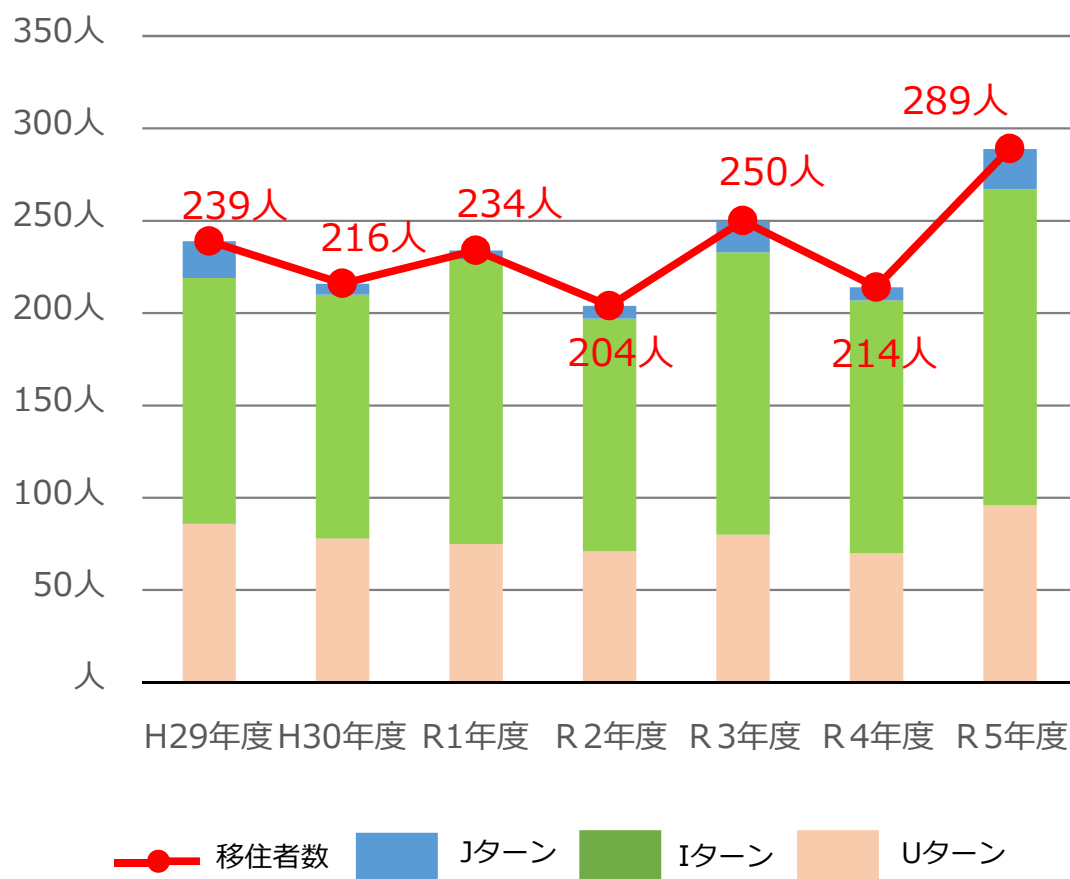
◎ 魅力を発信 ⇒ 小豆島へ誘客

地場産品の取り組みについて学ぶ

大学生考案のメニュー

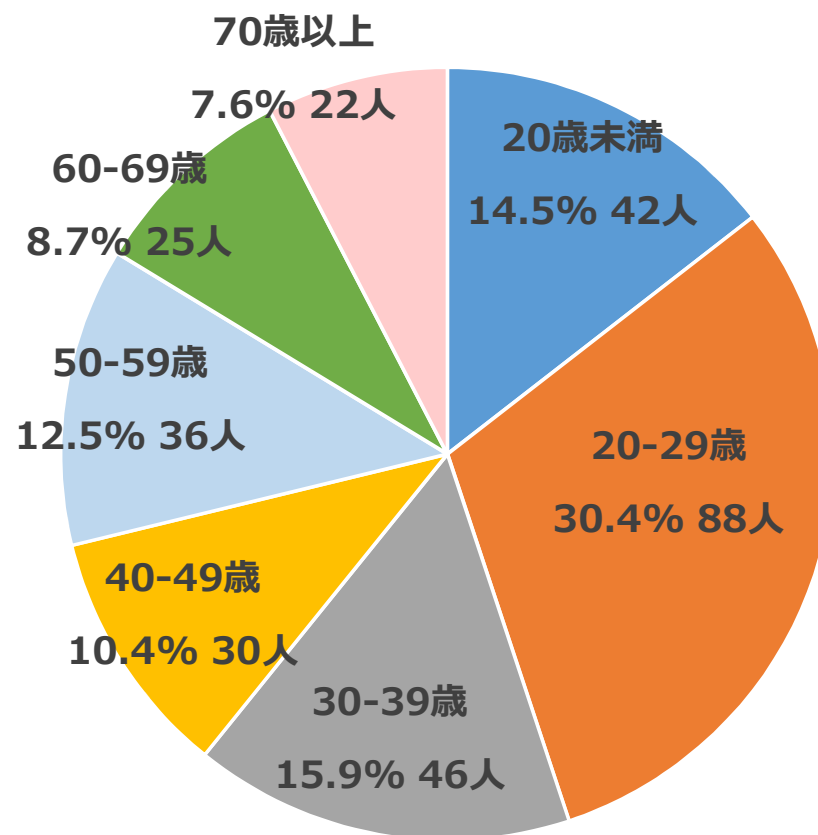
# 島外からの流入人口増加

◆土庄町における移住者数の推移◆



◆令和5年度 移住者年齢別内訳◆

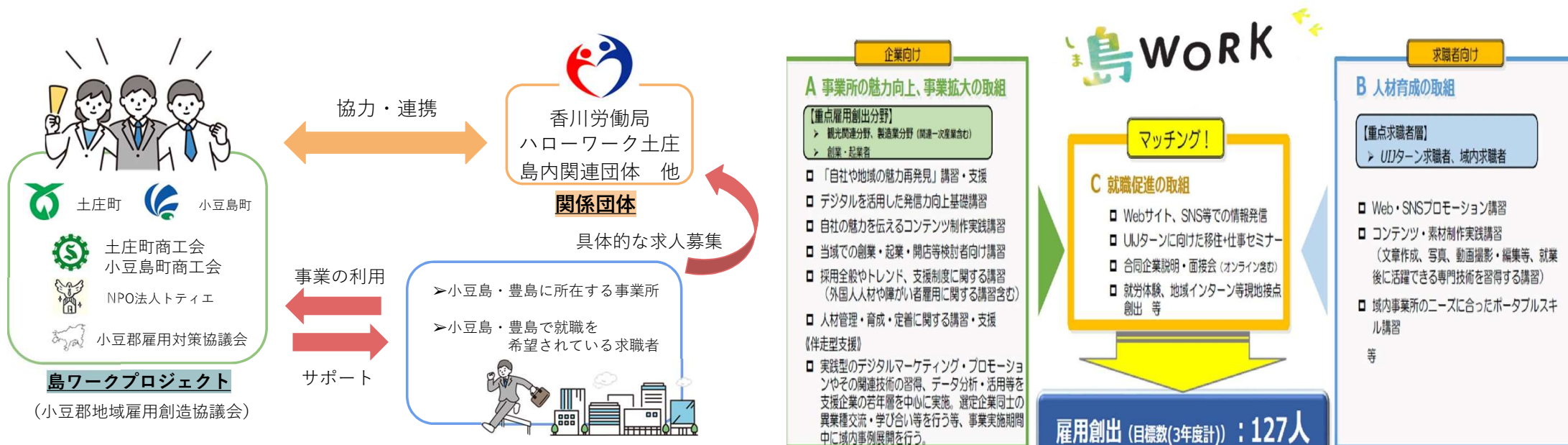
n=289



## 地域特性を生かした魅力的雇用や人材の維持・確保

産学官連携による雇用促進（地域雇用活性化推進事業：県内初採択）

島内企業が抱える人材不足と移住希望者をマッチング



両町・両商工会など共同で実施

## 空き家を活かした事業者の移住定住促進

事業者の移住・定住促進による町内雇用の創出（空き家の利活用促進）

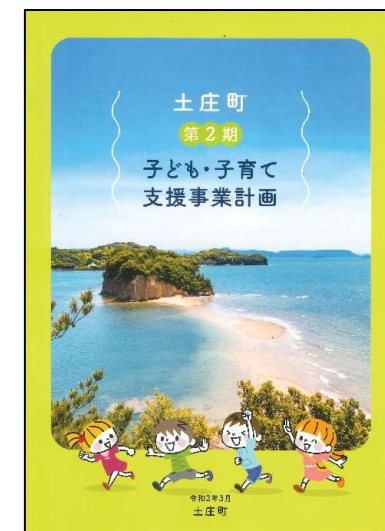
空き家バンク登録物件を購入し、一定期間以上使用する事業者に耐震対策・改修費を支援



## 安心とゆとりある子育て

子どもの成長やライフステージに応じた各種支援

家庭の経済的負担を軽減させ、心と生活にゆとりを持った子育て環境を目指す



うみまちサポート  
交通費・宿泊費  
助 成

産後ケア交通費助成

放課後子ども教室

おむつ処理ゴミ袋無償配布

放課後児童クラブ（定員拡充）

すこやか手当

学校支援員の充実（増員）

小豆島中央高校 通学助成

出産・子育て応援交付金（単独上乗せ有）

こどもインフルエンザ接種助成

奨学金返還  
免除制度

不妊症・不育症助成

エンゼル祝金

こども医療費 無償化

妊 娠

出 産

未就学

小学校

中学校

高 校

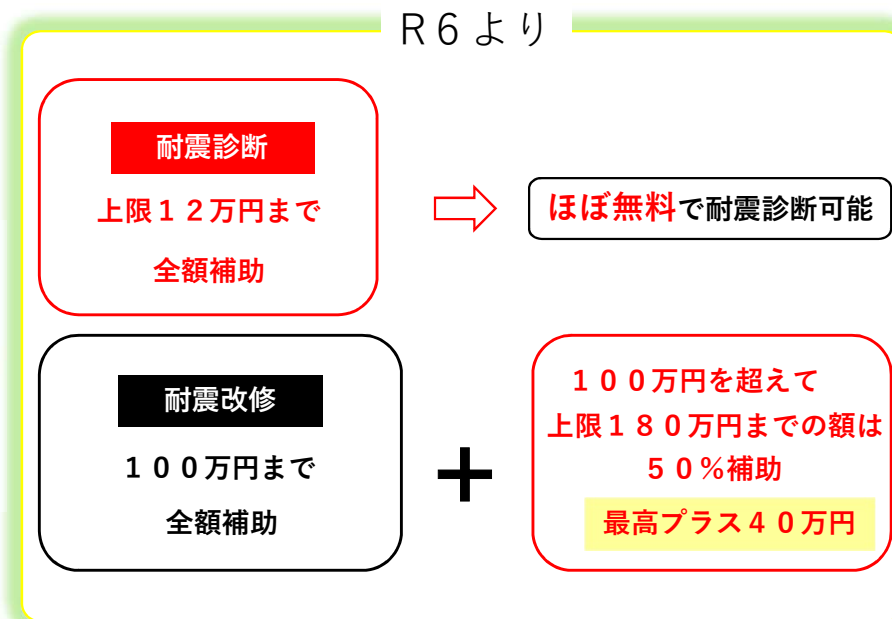
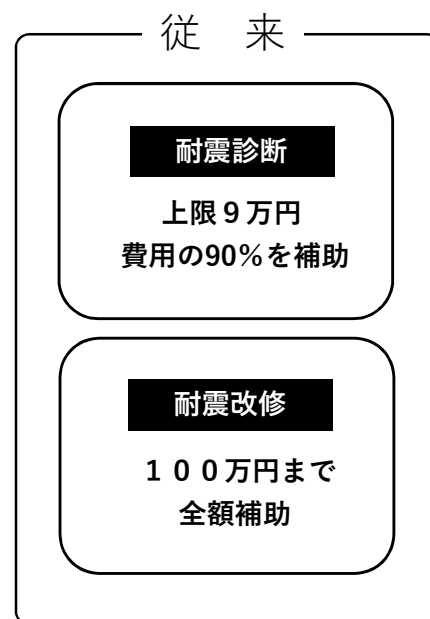
大学等

|         | 種 別            | 土庄町                                    | 兵庫県明石市                              | 岡山県奈義町                             |
|---------|----------------|----------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 妊娠期     | うみまちサポート       | ○<br>町外での出産支援                          | －<br>制度無し                           | －<br>制度無し                          |
|         | 不妊症治療助成        | ○<br>補助額（7.5万円～30万円）、回数制限有（医療保険適用外対象）  | －<br>制度無し                           | △<br>補助率（1/2）、20万円/年×5か年           |
|         | 不妊治療検査助成       | －<br>制度無し                              | ○<br>治療助成は無いが、検査助成あり                | －<br>制度無し                          |
|         | 不育症助成          | ○<br>補助回数に上限なし→補助額が最大                  | ×<br>補助率（50%）、補助回数（1回/年）、検査に対する補助あり | △<br>医療保険適用外のみ対象（30万円/年×5か年）       |
| 出産期     | 出産・子育て応援交付金    | ○<br>国制度10万円＋町単独5万円                    | △<br>国制度の10万円                       | △<br>国制度の10万円                      |
|         | エンゼル祝金         | ○<br>第1子～第3子10万円、第4子以降20万円             | 制度無し                                | △<br>1人一律10万円                      |
| 産後期     | 産後ケア事業         | △<br>利用料：無料～7,000円                     | ○<br>利用料：無料～5,600円                  | －<br>利用者負担の明記無し→比較不可（町負担の明記はある）    |
|         | 産後ケア交通費助成      | ○<br>制度無し                              | －<br>制度無し                           | －<br>制度無し                          |
| 未就学期    | すこやか手当         | △<br>第3子以降（3歳まで）が対象（年額12万円）            | ×<br>1歳まで紙おむつやミルクを毎月現物支給（3,000円相当）  | ○<br>全子ども（4歳まで）が対象（年額15万円）         |
|         | おむつ処理ゴミ袋無償配布   | ○<br>こども園に入園していない子どもも対象                | －<br>制度無し                           | △<br>保育園への入所者のみ対象                  |
|         | 保育料無償化         | △<br>国・県制度により一部無償                      | ○<br>第2子以降 完全無償                     | △<br>国・県制度により一部無償                  |
|         | 病児病後児保育        | ○<br>利用日額2,200円、第2子（3歳まで）・第3子（6歳まで）は無償 | △<br>利用日額2,000円                     | △<br>利用日額2,000円                    |
| 未就学～高校期 | 子ども医療費無償化      | ○<br>高校生まで無償                           | ○<br>高校生まで無償                        | ○<br>高校生まで無償                       |
|         | こどもインフルエンザ接種助成 | △<br>インフル 2,000円補助（高校生まで）              | ×<br>インフル 無償（3歳未満）                  | ○<br>おたふくかぜ無償（5歳児まで）、インフル無償（高校生まで） |
|         | 公共施設入場料無料化     | △<br>博物館や町営プール無し、スポ少は体育施設 無償           | ○<br>市営施設（一部保護者も無料）                 | －<br>情報なし                          |
| 小学校期    | 放課後子ども教室       | ○<br>利用料は必要だが、休日以外ほぼ毎日実施               | △<br>利用は無償だが、実施回数が場所により1ヶ月に1回程度     | －<br>情報なし                          |
|         | 放課後児童クラブ       | ○<br>利用料が最も低い、実施時間も最長（18：30まで）         | ×<br>利用料が最も高い、実施時間が最短               | △<br>利用料は2番目に高い、実施時間も2番目の長さ        |
| 小学～中学期  | 給食費無償化         | △<br>第3子以降 無償                          | ○<br>中学生 無償                         | －<br>制度無し                          |
|         | 学校支援員の充実       | ○<br>R6 児童生徒33名に対して支援員1名               | △<br>R3 児童生徒353名に対して支援員1名           | －<br>情報なし                          |
| 高校期     | 小豆島中央高校通学助成    | ○<br>バス定期券補助                           | －<br>制度無し                           | －<br>制度無し                          |
| 高校～大学期  | 奨学金返還免除制度      | ○<br>補助金 高校生（最大：36万円）、大学生（最大：240万円）    | ×<br>給付型奨学金 高校生のみ対象（全日制最大：66万円）     | △<br>補助金 高校生のみ（最大：72万円）            |
| ○（1位）   |                | 14                                     | 6                                   | 3                                  |
| △（2位）   |                | 6                                      | 4                                   | 9                                  |
| ×（3位）   |                | 0                                      | 5                                   | 0                                  |
| －（比較不可） |                | 1                                      | 6                                   | 9                                  |

## 安心して暮らせる住環境を支援

住みやすく、過ごしやすい生活基盤を確保するため

民間住宅の耐震診断・耐震改修に土庄町独自の上乘せ補助を開始



## 最後に

将来世代への**バトン**となる行財政運営